

第23回「議員と語りかい」報告書

3班 (No.1)

開催日	平成29年 5月12日 (金) 19時00分 ~ 20時30分		
開催場所	佳例川地区公民館		
団体名	佳例川、比曾木野地区	参加人員	11人 (男10人:女 1人)
出席議員	前島 広紀、中村 正人、前川原 正人 中馬 幹雄、植山 利博、平原 志保		
役割分担	班 長 (前川原 正人) 副班長 (中村 正人) 記録係 (平原 志保)		
テーマ及び具 体的な内容	佳例川、比曾木野地区の今後の活性化 限界集落地域のリーダーの高齢化、今後地域をどう残していくのか。		

意見交換での主な意見

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
<p>◆伐採跡地が荒れている。山林伐採後の植林がされず、災害が心配である。</p> <p>◇山林の伐採の問題は、どこでも起こっており懸念材料。植林しなさいという事は市の方も指導しているが、法的根拠がなく業者がしない場合もある。災害が起こればお金もかかるし労力もかかる。市に要請する。</p> <p>◇企業が植林をしたくなる仕組みが必要なのではと思う。</p> <p>福山の土地に合う薬木などを見つけ植えることで解決するのではないか。</p> <p>◆福山は畜産のまちで若者が戻ってきている。1頭、2頭ではなく10頭、20頭の貸し付けをしてほしい。</p> <p>◇議会でも畜産振興の質問をしている。今なぜ子牛の値段が良いのか、需要と供給のバランスだが、福山においては大型農家が増えている。事業が充実するように、市もそれぞれ検討している。</p>

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

◆限界集落の活性化策のために何かできないか。

市内の他の限界集落と中心地の住民とつなげてなにかできないか。

当地区では、佳例川米、サツマイモの蔓無源氏（つるなしげんじ）を栽培。蔓無焼酎を作っている。農地をフルに使うことで、活性化させるために支援してほしい。

◇人口の二極化は日本全国の問題だが、限界集落にある資源を有効に生かし商品化するというのが一つ。中心地域から人を呼び込む。子供達や若者を移すなどあらゆる政策を使っての対策が必要と考える。

◇人口の二極化に対し防ぐために様々な課題の取組をしていく

◆皆さんが佳例川は元気だというのが、4地区あったのが1地区脱退し、2年目になった。

現実、来年は集落で役員をする人がいない。

限界集落で独居老人が増えている。見守り制度・独居老人の見守りが出来るシステムがほしい。曾於市では緊急通報・生活サポートシステムがある。

◇本市でも同様のシステムを介護保険の制度で対応している。

◆議会だよりをみると、議案、陳情で賛成反対あるが、第37号で賛否の理由はなにか。

◇賛成・反対それぞれが回答。

◆空き家への対応はどうなっているか。

◇行政側も、個人の所有権があり、直接手が出せない。所有者が解体する場合は、危険廃屋の解体に補助金を出している。

◆役員のなり手がいない。今役員をやっている人たちがいなくなったら、そのあとがいない。

イベントをやれといわれても準備が大変。

◇まちなかである国分、隼人は逆に自治会の加入率が低い。それに比べれば佳例川はコミュニティが濃い。隼人の自分のいる地域ではこの6、7年一年ごとに会長を変えているが、順番がまわってくると自治会をやめてしまう。どちらも課題がある。

◆公民館活動の負担があまりに大きすぎて、自分たちの活動に手がまわらない。

小さい時から地域に貢献しなければいけないという教育が大事だと思うので徹底してもらいたい。議会でも議論してほしい。